

BPT (バイオマスプロジェクトチーム) だより No.49

http://www.pref.chiba.lg.jp/svozoku/e_ichihai/bio/biotop.htm



平成21年7月31日(金)
バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

1. 事業の進捗状況等

平成21年度第1回

千葉県木質バイオマス新用途開発プロジェクト木質プラスチック部会

6月11日(木) 同部会の会合が、事務局である千葉県産業支援技術研究所で開催され、昨年度の活動報告、今年度の取組計画を議題として意見交換が行われました。



部会の様子

2. 研究機関との連携

地域LCA協議委員会

5月20日(水)と7月29日(水) 今年度も継続して「千葉県におけるバイオマス有効活用に関する研究」を進めるため、同委員会が開催され、(独)産業技術総合研究所、芝浦工業大学から研究内容の説明がありました。また、当チームとの意見交換が行われました。



委員会の様子

3. 普及啓発活動

ウィスコンシン・フェスティバル(於:千葉大学けやき会館)

5月24日(日) 千葉ウィスコンシン協会が5周年を迎えたことを記念したフェスティバルが開かれ、本県の姉妹州であるウィスコンシン州と交流のある当チームも、バイオマス製品の展示・解説を行いました。当日は雨模様でしたが、音楽ステージや牛の搾乳体験などもあり大勢の人で賑わいました。



展示の様子

生涯大学校外房学園、京葉学園講義

5月27日(水) 6月23日(火)に、県民向けの学習講座である生涯大学校において、バイオマスに関する講義を行いました。

バイオマス利活用推進支援研修(於:農林水産研修所)

6月4日(木) 農林水産省のバイオマス担当職員向け研修会で、当チームリーダーが講義を行いました。

「地域におけるバイオマス利用の課題と意義」について現場の視点から説明を行いました。



講義の様子

エコフィードに係る説明会

エコフィードとは利用されなかった食品残さ等を利用した飼料及び食品残さ等を混合した飼料で、バイオマス資源の新たな利用先として有望視されていることから、この普及を図るため事業者が集まる会合を利用して6月12日(金)に説明を行いました。

県民の日行事での木質プラスチック普及活動

6月15日(月)の県民の日に、県立中央博物館において環境学習・木質プラスチックの普及啓発活動を行いました。サンブスギの説明、展示、エコデコイの色付けなどの体験活動に大勢の参加者を集めました。



会場の様子、完成した作品たち

平成21年度廃棄物対策・清掃事業研修会

7月17日(月)に県内市町村環境部局・清掃組合等の担当者を対象とした研修会が開かれ、バイオマスの利活用やバイオスタウン構想について当チームから講義を行いました。

～バイオスタウンより～「市原市バイオスタウン構想の策定」

本市は、千葉県のほぼ中央に位置し、面積は368.2km²で県内では最も大きく、首都圏でも有数の市域を有しています。臨海部には石油化学コンビナート、中央部には田園、丘陵地には山林が広がっており、多様なバイオマスの賦存が見込まれることから、本構想を策定しました。

市内を4つのバイオマス利活用ゾーンとして設定し、臨海工業地帯を「ハイテクゾーン」、中央部の農業地帯を「アグリゾーン」、養老溪谷などの南部地域を「ウッドゾーン」、市域全体をフラワーゾーンと位置付けました。

これまでも、民間事業者による家畜排泄物の堆肥化、木質や廃棄物を利用した発電事業など、バイオマスの利活用に対する取り組みが実施されております。

また、新たな利活用への研究等も行われ、期待されているところです。

今後、利活用を一層推進するために、多くの関係者との連携した取り組みが重要なことから、市民、ボランティア団体、NPO、民間事業者、学識経験者等との協働による利活用推進委員会を設置し、各産業の活性化を図りつつ、循環型社会の形成に取り組む体制を構築していきます。



(こちらの文章は、市原市より寄稿いただきました。)

